

有機農業の取組拡大に向けた 各地の取組事例集

輸 出 編

国際認証取得拡大緊急支援事業のうち有機JAS認証等取得等支援事業

令和元年 8 月
生産局農業環境対策課

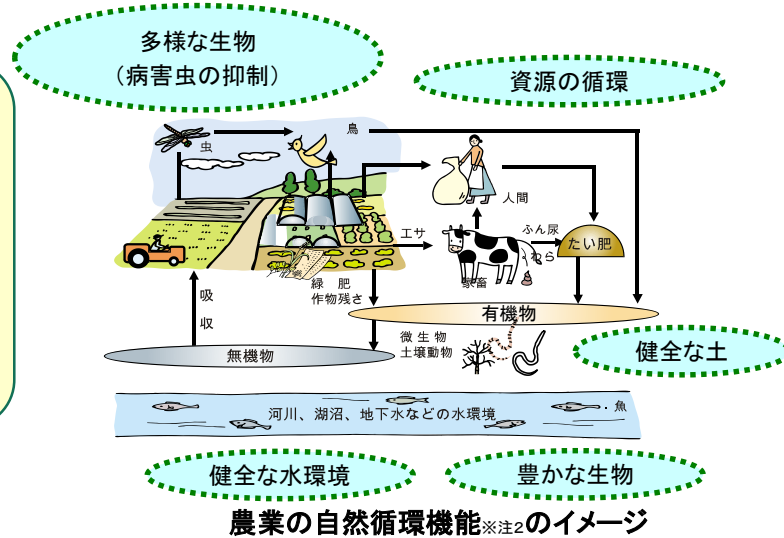
農 林 水 産 省

環境保全型農業・有機農業・有機農産物とは

環境保全型農業

環境保全型農業とは、農業の持つ物質循環機能を生かし、生産性との調和などに留意しつつ、土づくり等を通じて化学肥料、農薬の使用等による環境負荷の軽減、さらには農業が有する環境保全機能の向上に配慮した持続的な農業、のことを指します※注1。

※注1:「今後の環境保全型農業に関する検討会」報告書(2008年3月 農林水産省生産局農産振興課環境保全型農業対策室)による。



有機農業

有機農業は、生物の多様性、生物学的循環及び土壌の生物活性等、農業生態系の健全性を促進し強化する全体的な生産管理システムであり、国際的な委員会（コーデックス委員会※注3）が作成した「ガイドライン※注4」に、その「生産の原則」が規定されています。

我が国では、平成18年度に策定された「有機農業推進法※注5」において、有機農業を「化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと並びに遺伝子組換え技術を利用しないことを基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法を用いて行われる農業をいう。」と定義されています。

※注3: コーデックス委員会とは、消費者の健康の保護、食品の公正な貿易の確保等を目的として、1963年にFAO及びWHOにより設置された国際的な政府機関。国際食品規格の策定等を行っており、我が国は1966年より加盟。

※注4: 有機的に生産される食品の生産、加工、表示及び販売に係るガイドライン(CAC/GL32-1999)

※注5: 有機農業の推進に関する法律(平成18年法律第112号)

有機農産物

有機農産物とは、化学的に合成された肥料及び農薬の使用を避けることを基本として、土壌の性質に由来する農地の生産力を発揮させるとともに、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した栽培管理方法を採用したほ場において、

- ・ 周辺から使用禁止資材が飛来し又は流入しないように必要な措置を講じていること
- ・ は種又は植付け前2年以上化学肥料や化学合成農薬を使用しないこと
- ・ 組換えDNA技術の利用や放射線照射を行わないこと

など、コーデックス委員会のガイドラインに準拠した「有機農産物の日本農林規格」の基準に従って生産された農産物のことを指します。

この基準に適合した生産が行われていることを第三者機関が検査し、認証された事業者は、「有機JASマーク」を使用し、有機農産物に「有機〇〇」等と表示することができます（逆に、認証を受けていない農産物に「有機〇〇」等の表示を行うことはできません）。



オーガニック・エコ農産物安定供給体制構築事業

※オーガニックビジネス実践拠点づくり事業の取組事例は、別冊「オーガニックビジネス実践拠点づくり編」をご覧ください

有機農業の面的拡大と有機農業により生産された農産物の安定的な供給体制を構築するため、輸出も視野に入れたマーケットインの発想を基本としたオーガニックビジネスの実践拠点づくりに対する取組を支援しました。

1. オーガニックビジネス実践拠点づくり事業

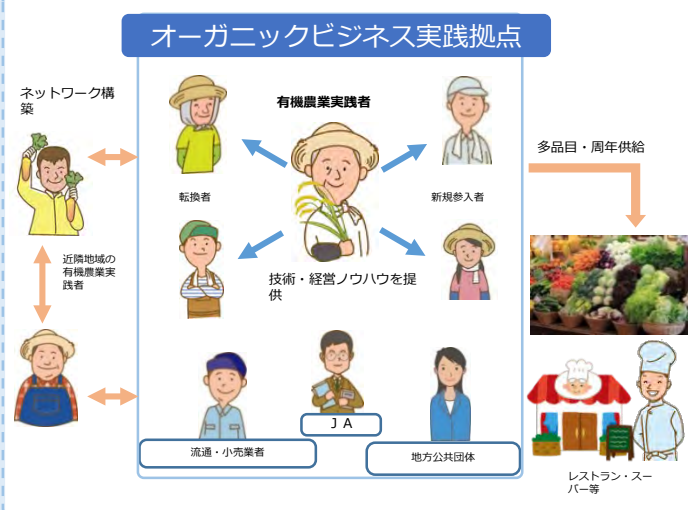
〔補助率：定額
事業実施主体：協議会〕

○ 生産供給拠点の構築

- ①実践拠点を核に新規の有機農業実践者の確保・育成や有機農業者間のネットワークづくりを支援
- ②複数の有機農業実践者による多品目・周年供給体制の構築、実需者との連携強化（定期的な意見交換）を支援
- ③有機農業新規参入者や慣行栽培からの転換者に対する技術講習会の開催や土づくり技術実証（最大2年間）を支援



各地にオーガニックビジネス実践拠点を整備



2. 全国推進事業

〔補助率：定額
事業実施主体：民間団体等〕

実践拠点の取組を支援

(1) 生産・実需情報の共有の構築・オーガニックビジネスの実践支援

- オーガニックビジネス実践拠点における販売戦略を企画・提案する「オーガニックプロデューサー」の選定・派遣
- 生産と実需を結び付けるポータルサイトの構築 等

(2) 消費者等の理解増進

- 消費者に対する啓発活動
- 生産者と実需者との商談会の開催 等

(3) 新規就農促進

- 研修受入れ農業者に対する研修会の開催 等

国際認証取得拡大緊急支援事業のうち有機JAS認証等取得等支援事業

※この取組事例集では、国際認証取得拡大緊急支援事業のうち有機JAS認証等取得等支援事業の取組を紹介しています。

E U 諸国及び東南アジア諸国等に対する農畜産物・加工食品の輸出拡大に向け、有機 J A S 認証等の取得等を支援しました。

事業内容

＜補助率：定額、1/2＞

- 有機 J A S 認証の取得、輸出向け商談、輸出向け新商品開発、技術講習会の開催、機械等リース等を支援
- GLOBALG.A.P.認証の取得、輸出向け商談等を支援

事業実施主体

協議会等

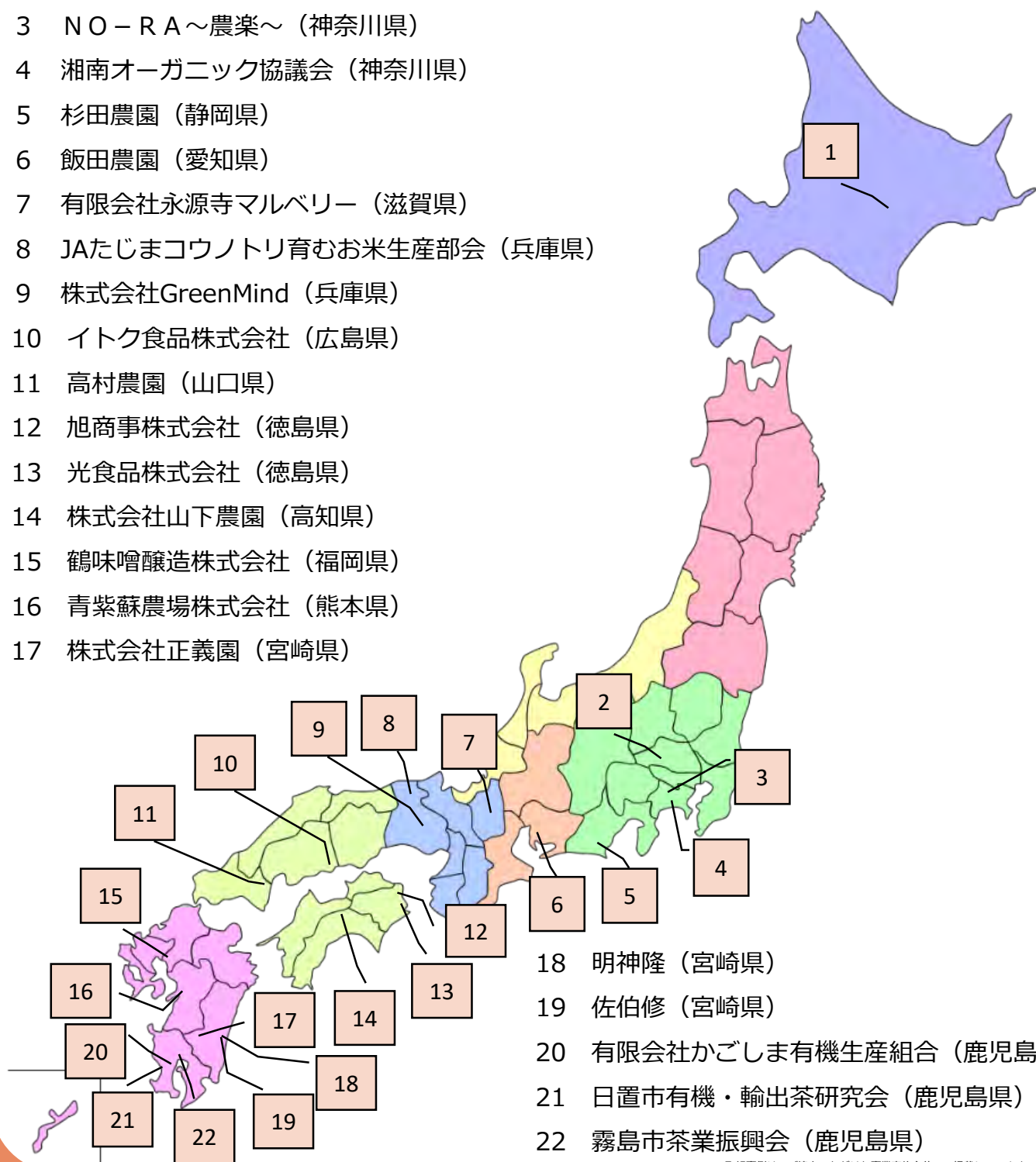
効果

- 有機同等性の仕組みを利用した E U 向け輸出の拡大
- 国内有機農業取組面積の拡大
- 取引先からの要求に応じた、GLOBALG.A.P.認証取得者数の拡大



国際認証取得拡大緊急支援事業のうち 有機JAS認証等取得等支援事業 実施地区一覧

- 1 北海道オーガニックビーフ振興協議会（北海道）
- 2 ヤマキ醸造株式会社（埼玉県）
- 3 NO-R A～農楽～（神奈川県）
- 4 湘南オーガニック協議会（神奈川県）
- 5 杉田農園（静岡県）
- 6 飯田農園（愛知県）
- 7 有限会社永源寺マルベリー（滋賀県）
- 8 JAたじまコウノトリ育むお米生産部会（兵庫県）
- 9 株式会社GreenMind（兵庫県）
- 10 イトク食品株式会社（広島県）
- 11 高村農園（山口県）
- 12 旭商事株式会社（徳島県）
- 13 光食品株式会社（徳島県）
- 14 株式会社山下農園（高知県）
- 15 鶴味噌醸造株式会社（福岡県）
- 16 青紫蘇農場株式会社（熊本県）
- 17 株式会社正義園（宮崎県）



- 18 明神隆（宮崎県）
- 19 佐伯修（宮崎県）
- 20 有限会社かごしま有機生産組合（鹿児島県）
- 21 日置市有機・輸出茶研究会（鹿児島県）
- 22 霧島市茶業振興会（鹿児島県）

※ 取組事例は、ご協力いただいた事業実施主体のみ掲載しています。

北海道オーガニックビーフ振興協議会（北海道）

事業実施主体の概要

北海道オーガニックビーフ振興協議会（HOBA）は有機畜産（特に肉用牛）の生産・流通拡大を目的に2017年4月20日に設立されました。

- 事業実施主体の構成員：生産者13/流通14/学術5/その他1
- 2018年度有機JAS格付実績：枝肉23頭、部分肉5t、精肉1.8t
- 主な事業：各生産者や流通関係のJAS有機認証を取得支援、オーガニックビーフ普及活動、生産者の増産、収益性の向上等の技術開発

成果（2017年→2018年）

- 生産量(HOBA参加牧場内)：
3頭(2017年)→14頭(2018年)
有機JAS認証により販売価格が上昇
- 有機JAS指定講習会受講者の増加：
10人(2017年)→47人(2018年)
- 有機JAS申請取得者数の増加：
1企業(2018年)→3企業(2019年（見込）)



有機JAS指定講習会釧路会場参加者

取組のポイント（取組期間：2017年～）

国内の肉用牛有機JAS認証は2009年に北里大学獣医学部附属FSC八雲牧場が取得して以降、約10年間普及が進んでいませんでした。協議会では、有機JAS牛肉の生産基盤拡大のために、海外への輸出も視野に入れた多角的な加工・流通販売モデルの確立を目指しています。

■新たな有機JAS取得に向けた取組

講習会を7回開催し、申請取得のための環境を整備

■輸出に向けた取組

オーガニックEXPO・JETRO台湾商談会に出展

台湾商談実施、GFP・JETROに登録し情報を共有化



オーガニックEXPO2018出展



一言アピール！

有機JAS牛肉生産は始まったばかりで安定するまでには時間がかかります。でも生産者、加工流通業者は環境を整備し前向きに取り掛かっています。これから徐々に生協やスーパーで販売してゆきますので、ぜひご賞味ください！

問い合わせ先：
北海道農政事務所
生産経営産業業務生産支援課
011-330-8807

ヤマキ醸造株式会社（埼玉県神川町）

事業実施主体の概要

- 製造している有機加工食品：醤油、味噌、漬物、豆腐製品
- 有機加工食品の生産量：782トン
（うち有機JAS認証生産量：643トン）
- 輸出額：4,900万円

成果（2016年→2018年）

- 有機加工食品の生産量：
719トン（2016年）→ 782トン（2018年）
- 輸出額：
4,329万円（2016年）→ 4,900万円（2018年）



取組のポイント（取組期間：2018年～）

■新たな商品開発に向けた取組

- ・国産有機味噌を海外でも小売り販売できるよう、海外輸送に適したパッケージを開発し、発酵ガスによるパッケージの膨張を防ぐためのガス抜き用のバルブをつけた商品を試作中。
- ・海外の方でも使いやすい味噌だれ等の商品開発に取り組み、試作品を各国のバイヤーに提供し好評価を得る。
- ・今後は、輸出先の規制に適合する包材を作成し、有機JAS認証を取得予定。

■輸出の拡大に向けた取組

- ・30年度に、オーストラリア、フランス、ドイツ、デンマーク、ベルギー、オランダの現地輸入業者と商談。日本の食品輸出EXPO（幕張）にも出展。
計235件の商談を行い販路を拡大。

一言アピール！

今後も国産100%の顔の見えるものづくりにこだわり、美味しい食品をお届けできるよう頑張っています。



（商談の様子）

問い合わせ先：
関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446



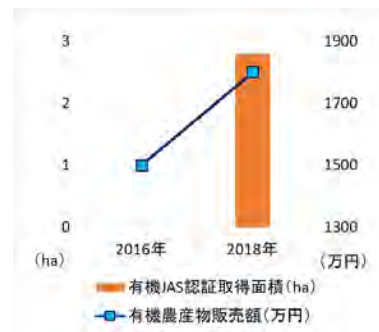
NO-RA ～農楽～ (神奈川県愛川町)

事業実施主体の概要

- 取組面積：3.0ha（全て有機JAS認証取得済み）
- 栽培品目：にんじん、にんにく等野菜類（50品目程度）
- 販売先：生協、スーパー、地元のレストラン等

成果（2016年→2018年）

- 有機JAS認証取得面積：
0ha（2016年）→ 2.8ha（2018年）
- 有機農産物の販売額：
1,500万円（2016年）→1,800万円（2018年）



取組のポイント（取組期間：2018年～）

■有機農業者の育成に向けた取組

- ・研修生を受け入れ、栽培技術や経営のコツ等を伝えるほか、**有機JASを取得することで、販路開拓のコストや時間を低減**するとともに、海外進出により研修生に自信等を与え、周囲の農家へも有機農業への転換を促すなど、有機農業者の育成に尽力。

■海外への販路拡大に向けた取組

- ・有機農産物を輸出するため、**12月にタイ、1月にラオス、2月にシンガポールにおいて商談を実施**。地元野菜との価格の折り合いや現地とのつながりの確保等において課題は見つかったが、ラオスではさつまいもやりんごなどの売れ行きが良いこと、シンガポールでは日本の野菜のニーズがあること等を確認。今後は、バイヤーを通じた輸出も検討。



一言アピール！

自然との調和で育った野菜は元気でキレイで美味しい！ 私たちは緑肥主体の土づくりで、この自然・生命豊かな日本の農業に貢献したい。



（商談の様子）

問い合わせ先：
関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446

湘南オーガニック協議会（神奈川県平塚市）

事業実施主体の概要

- 取組面積：5.0ha（うち有機JAS認証取得面積：1.2ha）
- 栽培品目：にんじん、さつまいも、たまねぎ等
- 販売先：スーパー、レストラン等

成果（2016年→2018年）

- 有機JAS認証取得面積：
0ha（2016年）→ 1.2ha（2018年）



取組のポイント（取組期間：2018年～）

■地域における有機農業の拡大に向けた取組

- ・ 本事業により**有機JAS認証を取得**。販路開拓のコストや時間を低減するとともに、周囲の農家が有機農業に関心を持つきっかけを与えるなど、**地域における有機農業の広がり**に寄与。

■海外への販路拡大に向けた取組

- ・ 有機農産物を輸出するため、**12月にタイ、1月にラオス、2月にシンガポールにおいて商談を実施**。

地元野菜との価格の折り合いや現地とのつながりの確保等で課題は見つかったが、ラオスではさつまいもやりんごなどの売れ行きが良いこと、シンガポールでは日本の野菜のニーズがあること等を確認。

今後は、バイヤーを通じた輸出も検討。



一言アピール！

たまねぎは初年度単収3.3トン、2年目は単収6トン。生産量も確保しつつ、なによりも美味しい野菜が広まっていくことを願っています。

問い合わせ先：
関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446

杉田農園（静岡県牧之原市）

事業実施主体の概要

- 取組面積：5.7ha（うち有機JAS認証取得面積:2.02ha）
- 栽培品目：茶
- 販売先：小栗農園、その他茶商等

成果（2016年→2019年）

- 有機JAS認証取得面積：
2.02ha（2016年）→ 2.35ha（2019年）
- 輸出数量：
515kg（2016年）→ 550kg（2019年）



取組のポイント（取組期間：2018年～）

■有機栽培茶の輸出拡大に向けた取組

- ・慣行栽培と有機栽培の両方に取り組む中で、ほ場の耕耘・深耕、堆肥散布等の作業を1台の管理機等で行っていたが、慣行の栽培管理で付着した害虫の侵入や農薬による暴露等により、有機栽培茶の収量・品質の低下や残留農薬の検出等のリスクが発生するとともに、有機栽培面積の拡大に当たり、農機具の洗浄等に係る労力の削減や作業の効率化が必要だった。

そのため、**有機栽培専用の乗用管理機及びクランクカルチ、深耕装置、肥料散布機をリースにより導入し**、有機栽培茶の収量・品質の向上に取り組むとともに、有機JAS認証面積を拡大。

また、輸出量の拡大につなげた。

一言アピール！

有機栽培のお茶の管理が、乗用型管理機導入で今まで以上に手かけられることによって、良質なお茶ができます。このお茶が国内外でさらに広がってほしいです！



（乗用型茶園管理機）

問い合わせ先：
関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446

飯田農園（愛知県名古屋市）

事業実施主体の概要

- 生産面積：0.19ha
- 生産している品目：ミニトマト
- 構成員：5名
- 栽培方法：ビニール袋に有機質肥料を混ぜた土を入れて、苗を植える「袋培地栽培」を実践



成果（2016年→2018年）

- 有機JAS認証取得面積：
0ha（2016年）→0.19ha（2018年）
- 有機加工食品の生産量：
トマトジュース 450kg（2016年）→650kg（2018年）
- 輸出金額：35万円（2016年）→45.7万円（2018年）

有機栽培ミニトマト



取組のポイント（取組期間：2018年～）

■新たな商品開発に向けた取組

- ・FOODEX JAPAN2019において、トマト酢の需要が見込まれたため、**新たな加工品（トマト酢）を開発。**

■輸出に向けた取組

- ・ミニトマト及びミニトマトの加工品（トマトジュース等）を輸出するため、3月に**海外バイヤーとの商談**を行い、2件の輸出につなげた。



一言アピール！

甘いトマトはいくらでもあります、有機栽培で日本一甘いミニトマト目指しています。
詳細はこちら→ <https://www.iida-farm.jp/>

問い合わせ先：
東海農政局生産部生産技術環境課
052-746-1313

有限会社永源寺マルベリー（滋賀県東近江市）

事業実施主体の概要

- 生産面積：10ha
- 生産している品目：桑8ha 明日葉2ha
- 事業実施主体の構成員：地域高齢者や障害者など15名～20名

成果（2017年度→2018年度）

- 有機JAS認証取得面積：1.2ha → 10ha
- 有機JAS出荷額：0円 → 約2千万円



取組のポイント（取組期間：2018年度）

■新たな商品開発・輸出に向けた取組

国産有機明日葉の需要が見込めた為、生産を拡大している。台湾やアメリカ向けに輸出する為、**数社間で商談**をおこなっている。また、**展示会などへ積極的にアピール**することで、さらなる販路拡大を狙っている。



一言アピール！

青汁などの健康食材の原料を全量有機JASとして出荷可能です。桑、明日葉、ケール、モリンガなど幅広く栽培しておりますので、お気軽にお声かけ下さい。

JAたじまコウノトリ育むお米生産部会（兵庫県豊岡市）

事業実施主体の概要

- 生産面積：471.7ha（減農薬含む）
- 生産している品目：米（コシヒカリ）

安全・安心でおいしいお米と多様な生き物を育み
コウノトリも住める豊かな文化・地域・環境づくりを目指しています。

成果（2017年度→2018年度）

- 有機JAS認証取得面積：0ha（2017年）→14ha（2018年）
輸出金額：0円（2017年）→560,000円（2018年）
- グローバルGAP認証取得面積：0ha（2017年）→18ha（2018年）
輸出金額：0円（2017年）→690,000円（2018年）

取組のポイント（取組期間：2017年～）

■シンガポールへの輸出に向けた取組

- ・グローバルGAP米を輸出するため、現地の米販売事業者と商談を行い、輸出につなげた。

■オーストラリアへの輸出に向けた取組

- ・有機JAS米を輸出するため、現地コーディネーターにマッチングを依頼し国内外輸出事業者と商談を行い、輸出につなげた。



一言アピール！

コウノトリ育む農法によって環境にも人にも優しく
こだわってつくった美味しいお米は、ネットで
全国販売しております。ぜひご賞味ください！

※ 「成果」「取組のポイント」については、たじま農業協同組合 コウノトリ育むお米生産組合のうち、有機JAS認証等取得支援事業に取り組んだ組合員の取組・成果について記載しています。

問い合わせ先：
近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722

株式会社GreenMind（兵庫県三田市）

事業実施主体の概要

- 生産している品目：米加工品（ベビーフード）
- 事業実施主体：株式会社GreenMind（代表取締役 高寺寿一）
 - ・2012年に農産物の加工による農業所得の向上並びに就農支援を目的に設立された農業法人。ゼロ歳からの食育をテーマにベビーフードの製造販売を通じ、米食文化の発信と米加工品の価値拡大に取り組む。

成果（2016年→2018年）

- 有機JAS認証取得生産量：
0 t（2016年）→ 1.4 t（2018年）



取組のポイント（取組期間：2017年～）

■有機JAS認証の取得

- ・国産米および米加工品の国内外での競争力と価値を高めるために、**有機JAS認証を取得**しました。

■輸出に向けた取組

- ・米の海外でのブランド価値向上とベビーフードの海外需要に応えるために、輸出を目指しています。国際的に通用する有機JAS認証の取得に加え、**多言語による商談リーフレットの作成**を行い、国産米と日本の伝統的離乳食文化の発信を行います。自社の強みを生かした越境ECの活用や商社への商材PRにより輸出に向けた活動を継続中。



商談用多言語リーフレット

一言アピール！

日本の伝統的離乳食文化の発信により国産米の美味しさが海外から評価されれば、農家と就農希望者の誇りになると信じ格闘しています！



イトク食品株式会社（広島県尾道市）

事業実施主体の概要

- 生産している品目：有機蒸し生姜湯16g × 4P
有機蒸し生姜シロップ120ml
有機蒸し生姜の粉末8g

成果（2016年→2019年）

- 有機JAS製品生産数：0品目（2016年）→3品目（2019年）

取組のポイント（取組期間：2018年～）

■新たな商品開発に向けた取組

- ・2018年8月エコサートジャパンより、**有機加工食品生産工程管理者認証を取得**し、有機蒸し生姜湯等の製品を生産した。
- ・**スーパーマーケットトレードショー2019広島県尾道市ブースで出展**した。2018年に出席した際、有機JAS認証を取得した蒸し生姜湯等が好評だったと感じたため、引き続き2019年9月に行われる「地方銀行フードセレクション2019」などに出展し、国内外の需要にこたえていく。

■海外への輸出に向けた取組

- ・2018年11月に国分グループ（株）による展示会に出展し、海外担当者との商談につなげた。
- ・2020年2月に行われるスーパーマーケットトレードショー2020に出展予定。国内外から多種多様なお客様が来場するので、引き続き輸出へつなげていきたい。



一言アピール！

“生姜で体温革命！”を掲げ、身体にやさしい原料を使い生姜製品をつくっています。



問い合わせ先：
中国四国農政局生産部生産技術環境課
086-224-4511

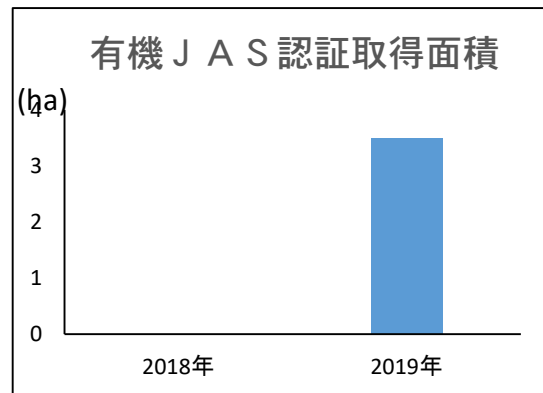
高村農園 (山口県岩国市)

事業実施主体の概要

- 生産面積：12ha
- 生産している品目：水稻、米加工品

成果 (2018年→2019年)

- 有機JAS認証取得面積：
0ha (2018年) → 3.5ha (2019年見込み)



取組のポイント (取組期間：2018年～)

■新たな商品開発に向けた取組

- ・海外への販売を行うための生産米の品質向上のため、2018年8月に**色彩選別機を導入**した。

■海外への輸出に向けた取組

- ・米を輸出するため、2018年10月に輸出エキスポに参加し、**海外事業者30社との商談を行った**ことで、2019年夏の香港の事業者を訪問し、契約先や販売店舗などの視察につなげた。



山口県の中山間地だからこそできる。美味しいお米と加工品の数々をもっとPRして和食の魅力を伝えていきたい！



旭商事株式会社（徳島県鳴門市）

事業実施主体の概要

- 生産している品目：有機凍結全卵
- 事業実施主体の構成員：3名

成果（2016年→2018年）

- 有機農業により生産される有機加工食品の生産量：
0kg（2016年）→ 10kg（2018年）

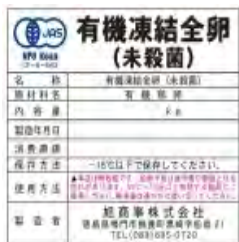
取組のポイント（取組期間：2017年～）

■新たな商品開発に向けた取組

- ・有機食品における実需者の意向調査を行った結果、高付加価値の見込めるスイーツ等の需要が見込めたため、**新たな加工品である有機加工食品（未殺菌有機凍結全卵）を開発し、新たに有機JAS認証を取得。**

■香港・台湾への輸出に向けた取組

- ・有機凍結全卵を輸出するため、2018年5月に**スイーツ製造メーカーとの商談**を1回（電話やメールでは複数回）行い、サンプル製造まで進捗。
- ・2019年は香港で毎年行われる催事用途に向けて、スイーツ製造メーカーと共同で日本の食材を使用した加工品の開発及び輸出を行います。



一言アピール！

日本国内でもオーガニックは広がっております。
スイーツや即食製品の原料にご使用いただけます。

光食品株式会社（徳島県板野郡上板町）

事業実施主体の概要

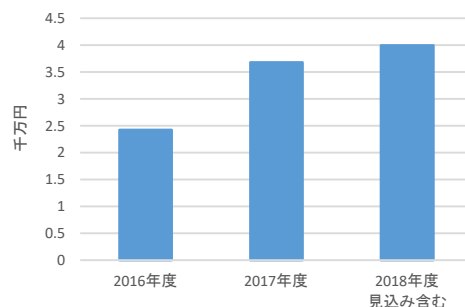
生産品目：有機JAS認証食品、有機原料を使用した食品、ソース、ケチャップ、ドレッシング、和風・中華風調味料などの調味料や飲料。

有機原料や国産原料にこだわり、添加物を使わない食品作りを行っています。

成果（2018年度）

- 輸出金額（展示会での輸出額、見込み含む）
 - ・有機ゆずフルーツプレッド：約30万円×年2～3回
 - ・有機ごまドレッシング（グルテンフリー）：約70万
 - ・有機ゆず果汁：約900万
 - ・有機ゆずピューレー：約30万
- その他、多数商談進行中です。

輸出売上高（6月決算）



取組のポイント（取組期間：2017年～）

- 海外輸出向けに開発・認証取得した有機JAS認証商品
 - ・有機ゆずフルーツプレッド
 - ・有機ぽん酢たまりしょうゆ（グルテンフリー）
 - ・有機ごまドレッシング（グルテンフリー）
- 展示会への参加
 - ・2019年2月、世界一の有機食品の見本市（ドイツ：Biofach）に参加し、上記商品を海外バイヤーに紹介しました。

EUやアメリカなどでは近年ゆずの人気の高くなっています。その為、**国産の有機ゆずを使ったフルーツプレッド（ジャム）を開発**し、有機食品の見本市にて**海外の市場にアピール**して、とても高評価を得ました。

また、グルテンフリーの商品も近年需要が高くなっており、日本食の広がりとともに、小麦を使わないたまり醤油もEUでは人気の商品となっています。弊社ではその**たまり醤油を使った有機ぽん酢や有機胡麻ドレッシングを開発**し、海外バイヤーからの引き合いを頂いております。



光食品工場風景

一言アピール！

これからも安心・安全な食品作りを行い、国内だけでなく海外のお客様にも、また、有機野菜・果実などの生産者の方にも喜んで頂けるような商品づくりを行ってまいります。



Biofachでの出展ブース

問い合わせ先：中国四国農政局
生産部生産技術環境課

TEL: 086-224-4511

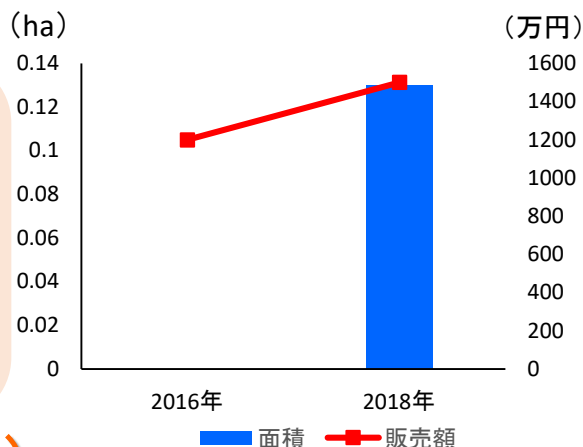
株式会社山下農園 (高知県本山町)

事業実施主体の概要

- 取組面積：3.0ha (うち有機JAS認証取得面積 0.13ha)
- 生産している品目：ニンニク・サツマイモ
- 販売先：高島屋・地元スーパーマーケット・地元レストラン等

成果 (2016年→2018年)

- 有機JAS認証取得面積：
0ha (2016年) → 0.13ha (2018年)
- 有機農産物の販売額：
1,200万円 (2016年) → 1,500万円 (2018年)



取組のポイント (取組期間：2018年～)

■ 海外との取引に向けての取組

- ・ 有機の農産物の輸出に向けて12月にタイ、2月にシンガポールで商談を行ったことで、海外において有機農産物のニーズがあることを把握することができたが、価格面の課題も見えてきた。今後もコーディネーターやバイヤーを通して輸出につなげていく。

■ 有機農産物の栽培技術力強化のための研修

- ・ 有機農家で活躍する講師を招き、栽培技術の实地研修及び座学、販売先へのアプローチ方法等を学習した。



一言アピール!

土づくりにこだわってつくった美味しい有機野菜を皆様にお届けできるよう頑張ってます！
ぜひご賞味ください！



問い合わせ先：中国四国農政局
生産部生産技術環境課
086-224-4511

鶴味噌醸造株式会社（福岡県柳川市）

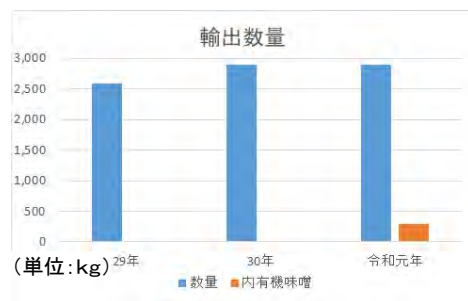
事業実施主体の概要

- 事業実施主体名：鶴味噌醸造株式会社
- 代表者名：代表取締役 吉開 元治
- 創業：明治三年
- 生産している品目：味噌及び味噌加工品
<https://www.tsurumiso.co.jp/>



成果（平成29年→令和元年）

- 有機JAS（味噌）認証取得
商談会に出展しフランス向け有機味噌輸出
- 輸出数量：2,589kg（平成29年）→
2,900kg（令和元年見込み）



取組のポイント（取組期間：平成30年～）

■新たな商品開発に向けた取組

- ・欧米諸国では有機食品の市場規模が拡大していること及び現在味噌を輸出行っているフランスの輸入業者からの有機味噌のオファーもあり、**新商品の有機味噌を開発するため、有機JAS（有機味噌）認証を取得。**

■フランスへの輸出に向けた取組

- ・フランスにおける有機味噌の需要が見込まれるため、取引先との商談を実施し、フランスの展示会などに出展し、さらなる有機味噌の販路拡大にむけた活動を実施。



一言アピール！

厳選した素材、職人の技、まごころをもって美味しく安全な味噌を製造しております。味噌は健康で豊かな食生活を実現できる和食の基本となる伝統的な調味料です。是非ご賞味ください。



問い合わせ先：
九州農政局生産部生産技術環境課
096-300-6272

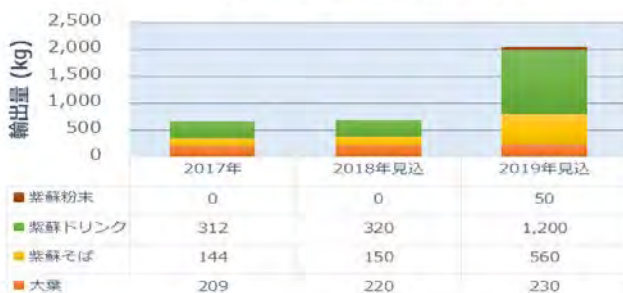
事業実施主体の概要

- 生産数量(輸出量): 665kg
- 生産している品目: 青紫蘇(生大葉)、紫蘇ドリンク、紫蘇そばなど
- 事業実施主体の構成員: 農業生産法人(有)吉川農園と、加工・販売を行う青紫蘇農場(株)で密に連携をとり、紫蘇の生産から紫蘇を使用した加工品の開発～加工・販売・輸出を行っている。
- ホームページ <https://shiso.net>

成果 (2017年→2018年)

- 有機JAS認証取得加工食品の輸出量: 665kg (2017年)
→ 690kg (2018年見込)
- 輸出金額: 1,414千円 (2017年)
→ 1,480千円 (2018年見込)

有機加工食品 輸出量推移



取組のポイント (取組期間: 2018年～)

■新たな商品開発に向けた取組

- ・世界的なオーガニック食品への関心拡大に伴い、イギリスやフランス(EU)、ミャンマーなどからの需要があり、**輸出国の基準に合わせた原材料の選定**を行い、ドリンクや麺類の加工食品、またエキスや粉末などの**加工用素材の開発**を進めている。原材料の供給増大に対応し、**有機圃場の拡大**も行った。

■EU,アジア圏への輸出に向けた取組

- ・紫蘇の加工食品・加工用素材をEU圏へ輸出するため、国内外バイヤーが集まる**商談会(FOODEXやSMTSなど)へ出展**した。新規に輸出有力なイギリスと個別打合せを行い、新商品輸出に向けて有機JAS対応、HACCP対応を進めている。



一言アピール!

熊本県(自社農園)の豊かな土壌と地下水で「紫蘇」を育てています。紫蘇の豊富な機能的成分を活かした安全・安心・美味しい製品を提供しています。紫蘇のことならお任せください!



有限会社かごしま有機生産組合（鹿児島県鹿児島市）

事業実施主体の概要

- 生産面積：有機JAS認証済み圃場面積：163ha
- 生産している品目：人参、玉ねぎ、じゃが芋、大根、さつま芋、他多数
- 事業実施主体の構成員：有限会社 かごしま有機生産組合
(代表 大和田 世志人)

成果（2017年→2018年）

- 有機JAS認証取得面積：
204ha（2017年）→ 217ha（2018年）
- 輸出金額：
0円（2017年）→ 150万円（2018年）

取組のポイント（取組期間：2018年～）

■新たな商品開発に向けた取組

オーガニックスムージの試食を行った結果、**スムージに類似した有機JAS加工品の需要が見込めたため、新たな商品展開**のきっかけになりました。

■有機農産物・加工品への輸出に向けた取組

有機農産物・加工品を輸出するため、商談を行い、輸出につなげた。商談会では、有機農産物、有機加工品を海外バイヤーと商談、引き合いの強さ感じました。上海、香港、東京で多くのバイヤーに恵まれ、香港、中国、クウェート、タイ、ドバイ、カナダで多くの反応がありました。現在も商流を含めて交渉を実施中。2018年度実績としては、**香港へ紫芋、ごぼう茶、黒糖生姜湯、クウェートにオーガニックベビーフードの輸出**を行いました。



一言アピール！

安心・安全にこだわってつくった美味しい野菜を
ぜひご賞味ください！

問い合わせ先：
九州農政局生産部生産技術環境課
096-300-6272

日置市有機・輸出茶研究会（鹿児島県日置市）

事業実施主体の概要

■ 構成員：12名

■ 活動内容：

■ 取組面積：

① 有機JAS 16ha

② ASIAGAP 90ha

① 有機栽培に適した品種への新・改植

② 有機栽培や輸出に配慮した防除体系の検討

③ 有機JAS・ASIAGAP等第三者認証の取得

④ 新たな商品開発やPR活動

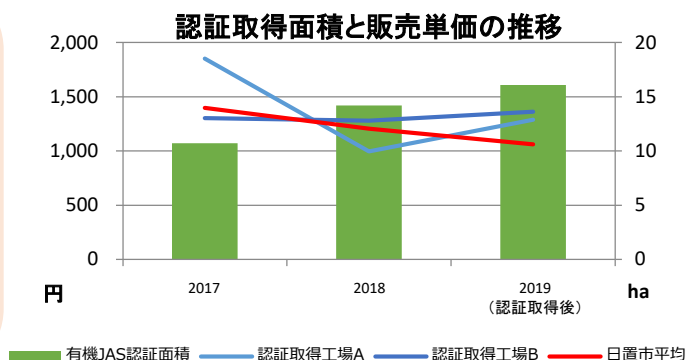
成果（2017年→2019年）

■ 有機JAS認証取得面積：

10.7ha(2017年)→16.1ha(2019年)

■ 一番茶単価：

1,314円(慣行比121%)



取組のポイント（取組期間：2018年～）

■ 有機茶園の団地化

- ・ 中山間地に点在する**小規模茶園の有機団地化**により、農薬飛散リスクを低減するとともに、**天敵やフェロモン剤を活用した防除技術の実証**に取り組むことで有機茶の生産安定につなげた。

■ 新たな商品開発に向けた取組

- ・ 海外での需要が高い抹茶の販売に向け、**新たな商品「抹茶スティック」を開発**。簡便な飲用形態を提案することで、国内の消費低迷にも対応。



一言アピール！

有機栽培に取り組み、国内はもちろん海外でも飲んでもらえるお茶づくりを目指しています！

問い合わせ先：
九州農政局生産部生産技術環境課
096-300-6272